

さて、この章では、これまで見てきた関係詞の基本を踏まえつつ、実際に英字新聞や英文雑誌などを読むさいの注意点を見ていくことにします。

機械的に直前の名詞にかけて、「…する〈名詞〉」と訳していく（あるいは頭の中で、そのようにとらえて読んでいく）だけでは、関係詞の含まれた英文を読みこなせるとはとてもいえません。むしろ、実際に数多くの英文にあたっていくにつれて、さまざまな問題に遭遇する場面が増えていくはずです。

まず、読むという行為に関して注意すべき点を具体的にまとめれば、以下のようになると思います。

▶▶▶ 関係詞・読むさいの基本鉄則

文中に関係詞らしきものが出てきたら…

- ① 関係詞節がどこまで及ぶか確認する☞文末までとは限らない
- ② 先行詞が関係詞節内のどこに「戻る」か確認する☞“空席”（文の要素として欠けているもの）をさがす
- ③ 先行詞を確認する☞直前の名詞とは限らない

4-1

先行詞の元の位置（空席）の確認

なぜ、その必要があるかというところ……

—[1] have to ... 「…せねばならない」と見えて、実は「にせ have to」—

なぜ、先行詞の元の位置をいちいち確認する必要があるのでしょうか？

関係代名詞が出てきたら、その後ろは、「不完全文」、つまり「先行詞となる名詞が欠けている構造」が続くことは、もう十分おわかりいただけたかと思います。「不完全」ということはいわば、“空席”がある文といえるのですが、その空席の位置を意識することが非常に重要なのです。

後ろからひっくり返って、先行詞にただつなげて訳すだけ、という習慣がついてしまうと、ついこのことを忘れてしまいがちです。また実際、なぜ“空席”の位置などをいちいち確認する必要があるのか、ピンとこない人もいると思います。しかし、それを怠ると、誤読したり、文の内容を勘違いしてしまう可能性があるのです。次の文を見てください。

- Internationalization is obviously the only means Japan has to continue its prosperity and survive in peace.

誤読（というより誤訳）の例

「国際化は明らかに日本が繁栄し続け、平和に生き延びなければならない唯一の手段である」（???というより×）

正しくは、

「国際化は明らかに日本が繁栄し続け、平和に生き延びるために日本が持っている唯一の手段である」

これは空席の位置を確認しないことからくる典型的な誤読です。The